

6月

今日の一言

7. 6. 19 校長 渕上 卓也



大園っ子の心を見つめる教育週間

みんなと過ごした日々

ぼくは、五年生の三学期から六年生の夏休みまで入院をしていました。入院していたので、みんなと過ごした日々は少ないです。それに、運動会や小体会会の時に参加さえできませんでした。でも、退院してからは、修学旅行やいろいろな行事に参加できたり、定期治療で遅れた勉強を教えてもらったり、国工を手伝ってもらったりして、こんなにうれしいことはありません。

ぼくは、このクラスの人々と同じクラスでよかったと思います。

みんな今までありがとうございました。中学生になって遅れているところがあったら自分で努力して、みんなに追いつきたいと思います。卒業してみんなと別れても、ぜったいにこの六年四組のみんなと先生の名前と顔を忘れません。みなさん本当に今までお世話になりました。ありがとうございます。

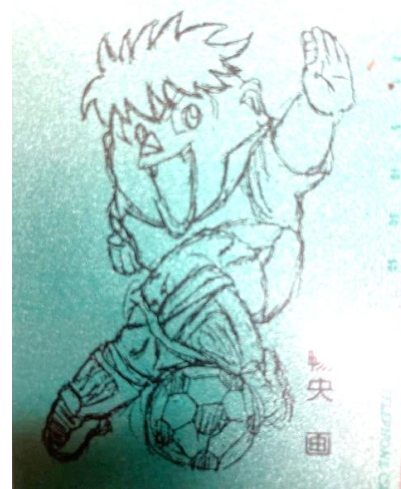
長崎市立西城山小学校第三十三回卒業生

暢 央 君 卒業文集より

来週は「大園っ子の心を見つめる教育週間」です。多くの保護者の皆様、地域の皆様に御来校いただき、子どもたちの心に触れていただきたいと思います。教育週間に、学校、家庭、地域が連携・協働して取り組み、豊かな心をもつ大園っ子を育てていきましょう。

さて、上記の作文は、昨年度も紹介しましたが、私が初めて卒業担任をした時の卒業文集の一文です。教育週間のスタートにあたり、毎年読み返しています。「ぼくは、このクラスの人々と同じクラスでよかったと思います。」今でもこういう思いを子ども一人一人にもたせることが、私の目標です。まさに「しあわせいっぱいの学校」の姿です。

もうすぐ彼の命日。今年もお墓参りに行って、「君が卒業した西城山小学校に負けないように、『しあわせいっぱいの大園小学校』であり続けるからね。」と、決意を伝えてきます。



<今日の一句>

学校は

しあわせいっぱい
あるところ

卓也